



**瑞宝単光章**  
元准海尉  
船田 正勝 (72)

昭和47年3月に海上自衛隊に入隊後、護衛艦での射撃関連業務やタグボートの運行業務に関わる。平成7年からタグボートの船長として勤務し、平成19年7月に退職。海上自衛隊員として国の安全確保と災害支援活動に貢献した。

昭和47年に入隊して以来、35年以上にわたり海上自衛隊に勤務し、護衛艦での射撃関係業務や、艦艇の離着岸を支援するタグボートの運航業務に携わってきました。

数多くの経験の中でも、特に印象に残っているのは阪神・淡路大震災です。タグボートの船長として神戸へ派遣され、護衛艦や支援物資を輸送する艦艇の離着岸支援に従事しました。約1か月にわたり活動し、多くの船舶の入出港を支援したことは、今でも忘れることのできない経験です。

このたびの受章は大変光栄であり、長年にわたり支えてくださった上司や同僚、そして家族のおかげだと感謝しています。これまでの経験を大切にしながら、今後も地域とのつながりを大切に、穏やかな日々を過ごしていきたいと思えます。



**瑞宝双光章**  
元宇城広域連合消防監  
橘 忠義 (73)

昭和46年10月に消防士に任命後、消防司令、消防司令長(本部課長)を経て、平成22年4月～平成25年3月までの間、消防長として地域の安心・安全に尽力し、貢献した。

「地域のために仕事をしたい」との思いで消防の道に進み、火災や救急救助などの警防業務をはじめ、予防業務や総務業務など幅広い分野に携わってきました。消防長として退職するまでの41年6か月、大きなけがもなく職務を全うできたことをありがたく思っています。在職中にはさまざまな災害を経験しましたが、特に大洋デパート火災、美里町豪雨災害、東日本大震災が印象に残っています。東日本大震災では、宇城消防本部からも緊急消防援助隊を派遣し、隊員の安全を案じながら活動を見守ったことを今でも鮮明に覚えています。

このたびの受章は身に余る光栄であり、家族をはじめ、職場の皆さま、構成市町や消防団の方々、そして多くの地域の皆さまの支えがあってこそこのものと深く感謝しています。今後も感謝の気持ちを忘れず、微力ながら地域社会への貢献を続けていきたいと思えます。



**瑞宝双光章**  
元日本郵政公社職員  
木下 仁弘 (70)

昭和53年郵政省(当時)入省し、昭和57年から九州郵政局(当時)の秘書課や貯金部で勤務。平成3年から令和元年まで29年間にわたり、宇土駅前郵便局長として郵便事業の発展と地域社会へ貢献した。

40年以上にわたる郵政生活は、振り返れば波乱万丈の連続でした。九州郵政局では広報や営業分野に携わり、アスペクトウルトラクイズ(1988年)や村上龍ミックスタブルステニス大会の運営、火の国まつりパレードなどのイベント企画・運営など多くの貴重な経験をさせていただきました。

宇土駅前郵便局長に就任した際には、同級生や地域の皆さまの温かい支えのおかげで円滑にスタートすることができました。

このたびの受章は、私一人の力によるものではなく、長年支えてくださった地域の皆さま、共に働いた職員の皆さまのおかげだと深く感謝しています。一方で、お客さまへの対応や組織運営において至らない点もあり、ご迷惑をおかけしたことは今も心に残っています。長い間支えてくれた家族、特に妻には感謝しています。



**瑞宝双光章**  
元宇土市副市長  
池田 信夫 (76)

昭和48年11月に宇土市役所へ入庁し、総務課長、財政課長、市民環境部長、総務企画部長などを歴任。平成22年7月から平成30年6月までの8年間に、宇土市副市長として市政の発展に貢献した。

職員・副市長として通算45年間市政に携わり、その間歴代5人の市長にお仕えし様々な経験を重ねることができました。

職員時代は、企業誘致を進めるため、工業団地の整備や熊本国体開催の会場となる宇土マリーナ(ヨットハーバー)建設に携わりました。

また、副市長時代には辛い経験をしました。それは熊本地震と豪雨災害です。全ての職員が身を粉にして復旧復興の公務にあたるなか、大切な仲間が災害関連死で亡くなり、とても悲しい経験をしました。

このたびの受章は歴代市長をはじめ上司や先輩また、共に汗を流した仲間そして陰ながら応援してくれた家族の支えがあったからだ感謝しています。これからはこの名誉に恥じぬよう努めて参る所存です。



**藍綬褒章**  
宇土市明るい選挙推進協議会長  
甲斐 きみ子 (77)

平成8年4月に宇土市明るい選挙推進協議会の委員に就任。その後、平成27年4月から協議会の会長を務める。選挙啓発活動を通じて、有権者の政治意識向上と投票参加の促進に貢献した。

明るい選挙推進委員として約30年にわたり活動してきました。これまで、街頭での啓発活動や選挙への参加を呼びかける活動を通じて、有権者の皆さんに選挙の大切さを伝えてきました。活動を続ける中で特に感じているのは、若い世代にもっと選挙へ関心を持ってもらいたいということです。18歳から投票できるようになりましたが、20代、30代の投票率向上は大きな課題だと感じています。これからの社会を担う若い人たちに、選挙や政治を自分事として考え、積極的に参加してほしいと思っています。

このたびの受章は、多くの委員や関係者の皆さまに支えていただいたおかげです。感謝の気持ちを胸に、これからも明るい選挙の推進に微力ながら力を尽くしていきたいと思えます。



**藍綬褒章**  
宇土市消防団長  
伊豫 孝信 (54)

平成6年消防団に入団、平成21年に2分団(花園地区)の分団長となり、本部の指導員2年、副団長10年を経て令和5年から宇土市消防団の団長を務める。

長い消防団生活の中で、一番心に残っているのは、平成28年の熊本地震での活動です。当時は副団長3年目で、各分団から被害情報を集め、どこの被害が深刻かを把握しながら分団長たちに指示を出し、消防署とも連携しました。ポンプ小屋の損壊確認や危険箇所の立入制限、避難所でのトラブル対応など、約1週間仕事を休んで対応にあたりました。

これからも、市民の生命と財産を守ること、そして団員を無事に家へ帰すことを第一に、自分たちの町は自分たちで守る、そのような消防団をつくっていきたくと思っています。苦楽をともにしてくれた団員の皆さん、温かく支えてくださった市民の皆さん、そして火事や災害のたびに何も言わず送り出してくれた職場の皆さんや家族に、心から感謝申し上げます。



**瑞宝双光章**  
元宇城広域連合消防司令長  
木下 亮二 (74)

昭和45年7月に消防士に任命後、消防司令、消防司令長(本部課長)を経て平成22年4月から平成24年3月までの間、北消防署長として地域の安心・安全に尽力し貢献した。

昭和45年に消防職員として採用されて以来、42年間にわたり地域防災と住民の安全確保に携わってきました。消防・救急の現場勤務をはじめ、消防緊急通信指令施設の導入や運用体制の構築、防災体制の強化などに尽力できたことを誇りに思います。振り返ると、入庁直後に経験した本町通の建物火災や、大洋デパート火災への出場、救急隊員として活動した日々など、多くの現場が今も鮮明に思い出されます。

このたび瑞宝双光章という身に余る栄誉を賜り、大変光栄に感じています。42年間無事に職務を全うできたのは、ご指導いただいた先輩方、共に働いた同僚や後輩、そして地域の皆さまのお支えがあったからこそです。また、長年にわたり支え続けてくれた家族にも心から感謝しています。これからも感謝の気持ちを忘れず、穏やかに日々を過ごしていきたいと思えます。



**瑞宝双光章**  
元県警部  
唐津 博康 (74)

昭和24年4月に熊本県警に採用され、主に地域・刑事部門で42年間勤務。定年退職後、6年間交番相談員として勤務。その後3年7か月間熊本県の機関で会計年度任用職員として勤務し、昨年退職。するなど、警察一筋で地域社会へ貢献した。

警察官として勤務した中で、巡回中に犯行を確認し、現行犯逮捕に至った経験が特に印象に残っています。地域の安全を守るため、休日も返上して事件の捜査や犯人の追跡にあたることもありましたが、少しでも地域への貢献につながっていればうれしく思います。

その一方で、家のことはすべて妻に任せきりで、多くの苦勞をかけました。このたびの受章は、家族をはじめ、共に働いた同僚や地域の皆さまの支えがあってこそこのものです。今後は長年支えてくれた妻に感謝しながら、宇土市で家族仲良く平穏に暮らしていきたいと思えます。

最後に、受章に際しお世話いただいた皆さまに心よりお礼申し上げます。



優勝した第5分団(網津地区)の皆さん

5/24日 令和8年度宇土市消防団操法大会

宇土市防災センターで、令和8年度宇土市消防団操法大会が開催され、第5分団第3班(網津地区)が優勝しました。この大会は、消防団員が消防用機械器具(ホースやポンプなど)の取り扱いや放水までの一連の操作について、これまで訓練で磨いてきた技術を競うものです。

団体

1位:5分団3班、2位:6分団2班、3位:1分団2班

個人

指揮者:重元裕輝(6分団) 1番員:平岡秋作(5分団)

2番員:江副凌央(5分団) 3番員:萩原堅太(5分団)



地元力士に声援を送る市民ら

5/23日~5/24日 大相撲夏場所、義ノ富士が敢闘賞 市民が大声援、市民交流スペース

大相撲夏場所(5月10~24日、両国国技館)は残りわずかとなると、にわかには宇土市出身の義ノ富士に初優勝の望みが出てきました。そこで市は市庁舎1階市民交流スペースにパブリックビューイングを設け、観戦した市民が大きな声援を送りました。千秋楽は義ノ富士が勝って大いに沸きましたが、結局初優勝の夢は来場所へ。それでも11勝4敗の活躍で2度目の敢闘賞を受賞。「次こそ賜杯を!!」と満員御礼、となった交流スペースは万雷の拍手と歓声に包まれました。市民が一つに結集、まさに「ワンチーム宇土」となって、義ノ富士、正代の郷土力士の健闘をたたえていました。



さつき盆栽を楽しむ親子

5/18日~5/24日 さつき盆栽花季展示会、丹精込めた21点並び 宇城さつき盆栽愛好会、大勢の市民が鑑賞

宇土市役所で「さつき盆栽花季展示会」が開かれました。宇城さつき盆栽愛好会(福田慧一会長)主催で、21鉢を展示。淡いピンクや白、オレンジ色など色鮮やかで、樹齢100年を超える古木の作品もあり、大勢の市民が鑑賞していました。細かく手入れされた作品を前に上網田町、田中さなえさんは「ものすごい。樹齢も相当古いものですね」とため息。福田会長は「白の淡色やヒガンバナのような形状をした花柄など、さまざまな品種で、丹精を込めて育てた作品ばかりです」と話していました。



ウナギの稚魚を放流するひかり保育園の園児ら

6/3日 ウナギの稚魚を船場川へ、緑川漁協 ひかり保育園「大きくな〜れ!」

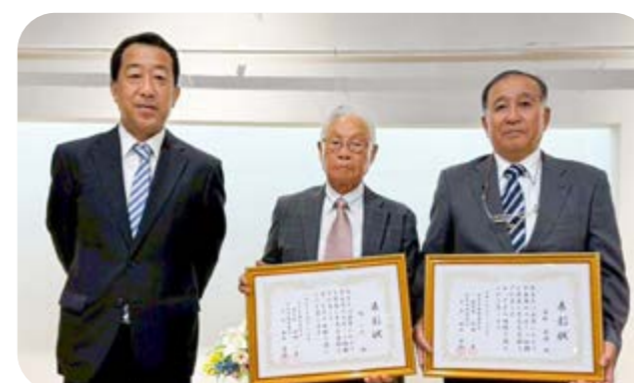
ひかり保育園(宇土市本町5)の園児20人と、緑川漁業協同組合(上益城郡甲佐町)の組合員8人が、市水産振興室の職員が見守る中、船場橋でウナギの稚魚80kg(約4,000匹)を放流しました。同漁協は毎年、緑川水系(船場川)へ放流しており、同漁協のスタッフが「大きくなって帰ってくるように放流に協力してください」と話すと、園児たちは元気よく「は〜い!」と応え、「大きくな〜れ!」「大きくな〜れ!」と次々に放ちました。同漁協は浜戸川にシジミも放流しており、ウナギなどを含めて水産資源の維持・繁殖に努めています。



九州管区行政評価局長表彰に選ばれた中熊聡さん

5/29日 九州管区行政評価局長表彰、元宇土市職員の中熊さん 「先入観捨て、寄り添い、一緒に問題解決を」

住民から寄せられるさまざまな相談の解決に向け、多大な貢献をした行政相談委員を顕彰する九州管区行政評価局長表彰に中熊聡さん(70)が選ばれました。今年度は中熊さんを含め県内で4人が表彰。宇土市の元職員で、平成29年4月から行政相談委員を務めています。家族の介護や金銭(借金)、空き家問題など相談事は多岐に及びますが、財政課や企画広報課、選挙管理委員会、会計課などで培った豊かな行政経験で対応。「先入観を捨て、話を十分に聞き、寄り添いながら問題解決につながればと心掛けています」と述べ、相談内容に応じて行政の担当部署や弁護士を紹介します。「誰にも相談できず、精神的に追い詰められる人が出てはなりません。『話してみても良かった』と言ってもらえるよう、今後も相談会の周知徹底や交通が不便な地域の相談会に取り組んでいきたいと思っています」



左から、市体育協会の田谷会長、受賞された旭一人さん、高松 義治さん

5/26日 宇土市のスポーツ振興に貢献 スポーツ功労者を表彰

宇土市のスポーツ振興に貢献された功労者に、市教育委員会と市体育協会から表彰状が授与されました。表彰の対象者は市のスポーツ振興に顕著な功績があり、また10年以上、体育・スポーツの普及振興のため企画、指導にあたってこられた方々です。

【スポーツ功労者表彰者】

高松 義治さん(宇土市柔道協会)

旭 一人さん(宇土市グラウンド・ゴルフ協会)



宇土市建設業協会青年部と宇土市役所技師会の皆さん

5/23日 梅雨に備えて大型土嚢を製作

網津郵便局跡地(住吉町)で宇土市建設業協会青年部と宇土市役所技師会の合計29人が、梅雨の大雨・浸水被害に備えた大型土嚢の製作作業を行いました。重機3台を使って重さ約1トンの大型土嚢を30袋製作しました。大型土嚢は、河川の氾濫や浸水を防ぐ応急資材として、いざというときに活躍します。宇土市建設業協会青年部は平成29年からこの活動をボランティアで継続しており、同部の野村貴文部長は、「いざというときに役に立てるよう、思いを込めて毎年製作しています。災害が起きず、今日作った土嚢を使うことなく梅雨を乗り越えられることを願っています」と話しました。



全国大会で優勝した網田小6年の村田采暁選手(右)

6/15月 全国大会優勝を報告、剣道の村田選手  
光井市長も今後の飛躍に期待

宮本武蔵旗小・中学生全国剣道大会2026(4月25日～26日、熊本市)で優勝した村田采暁選手(網田小6)が光井市長を表敬訪問。「緊張しましたが、一緒に稽古をした仲間と自信をもって試合に臨みました」と振り返りました。高田少年剣道クラブ(八代市)のメンバーとして団体戦(小学高学年の部)に出場、副将を任されました。得意技は小手で、個人戦はベスト16入りする実力。光井市長は「進学してもさまざまな試練を乗り越えて頑張ってください」と今後の飛躍に期待を込めました。



全国大会に出場するうとスポーツクラブの皆さん

6/15月 全国大会出場を報告、うとスポーツクラブ  
卓球の4選手が光井市長に健闘誓う

全農杯2026年全国卓球選手権大会(7月24日～26日、神戸市のグリーンアリーナ神戸)に出場する、うとスポーツクラブの吉住奏大(宇土小3)、吉田結美(花園小4)、吉田亜美(花園小2)、小篠莉子(宇土東小2)の4選手が光井市長を表敬訪問。「一つでも多く戦えるように頑張ります」と、健闘を誓いました。4選手は県予選(5月2日、菊陽町総合体育館)を好成績でクリアし、全国大会への出場権を得ました。4選手はそれぞれ本大会で、ホープス・カブ・バンビの部にエントリーします。光井市長は「先生方から習ったことをしっかりと大会で出せるよう頑張ってください。受賞報告でまた市役所に来てくださいね」とエールを送っていました。



ヒマワリの種を植える肥後っ子保育園の園児

6/5金 宇土市中央公園、ヒマワリの種植え  
肥後っ子保育園児、花いっぱい運動に協力

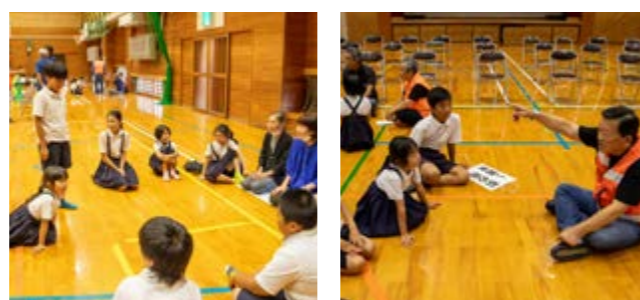
肥後っ子保育園の園児17人が、近くの中央公園でヒマワリの種を植え、市が取り組む花いっぱい運動をサポートしてくれました。市都市整備課が種植えの協力を相談すると、園側も快諾。園児たちは暑さに負けず、黙々と丁寧に植え、最後に元気よく「大きくな～れ!」「大きくな～れ!」と声をかけていました。同課職員が「みなさんのおかげで夏には公園もヒマワリできれいになって、ますます華やかになるでしょう。ありがとうございました」とお礼を述べると、園児たちも「とても楽しかった」「咲くのが楽しみ」「もっと種を植えたかった」と笑顔で感想を語っていました。5月30日(土)も早朝、婦人会や行政区長会、建設業協会などから多くのボランティアが集合、中央公園で花々の植栽活動に汗を流しました。



対面式でお散歩隊の隊員に自己紹介する児童

6/17水 網田小で  
お散歩隊との対面式がありました

網田小学校の体育館で、児童と登下校を見守るお散歩隊(梅田雅令隊長)の対面式がありました。お散歩隊は、網田地区の住民がボランティアで行っているもので、オレンジベストを着た隊員が児童の登下校の時間に合わせてお散歩し、児童や地域の人へのあいさつ・声かけを行うことで児童を見守る活動で、現在約80人が登録。対面式では、網田小6年の宮本燈里さんが、「朝、お散歩隊の方が『いってらっしゃい』と笑顔で声をかけてくださるので、『よし今日も頑張るぞ～!』と明るい気持ちになります。今年も1年間よろしくお祈りします」と代表であいさつしました。



善行会令和8年度春季表彰を受賞された皆さん

6/13土 日本善行会宇土支部春季表彰式

宇土市民会館大会議室で、日本善行会の特別表彰と春季表彰の伝達式がありました。挨拶をした今村司宇土支部長は、「陰ながら続けられている善行に、光をあてられるような活動を今後も善行会で続けていきたい」と今後の活動への抱負を述べられました。山本さんは民生委員・児童委員を24年間務めた活動、鶴長さんは宇土高校前の交通指導を30年間以上実施している活動により、特別善行金章を受賞されました。宇土市の受賞者は、次のとおりです。  
**特別善行金章:**山本文市さん、鶴長フタエさん  
**特別善行銀章:**園田正弘さん、中園久道さん、中嶋和世さん  
**青少年善行章:**公共生活への貢献、西田芹奈さん  
宇土市立緑川小学校(善行当時:6年生)



思い思いのバルーンを作る参加者

6/13土 花園公民館青空教室  
第1回バルーンアート教室

花園コミュニティセンターで、宇土市在住のバルーンアーティスト・松村有里さんを講師に迎え、花園地区青空教室の第1回となる「バルーンアート教室」が開催されました。約120人の親子が参加し、色とりどりの風船を使いながら動物やリュックなどの作品づくりに挑戦しました。参加した花園小学校4年の椎葉小晴さんは、「バルーンを膨らませるのが楽しかった。今回作ったものを家に持ち帰って大事にしたい」と話しました。青空教室は、地域の人材や資源を活用しながら、子どもたちの居場所づくりや地域教育力の向上を目的に各地区公民館で実施されています。花園公民館が開催した今回の活動は、花園地区青少年健全育成協議会の支援を受けて実施されました。